国語

（地理歴史・公民、数学は別冊子（R）になります）

令和三年度入学試験問題

受験上の注意

一、監督の指示により解答用紙に受験番号（算用数字）、氏名、フリガナを記入し、受験番号および該当する試験日をマークしてください。
　記入については解答用紙の注意事項に従ってください。
二、問題冊子の解答番号と解答用紙の番号を間違えないように注意してください。
三、国語の問題は、二～十八ページにあります。試験開始の合図があったら、まずページ数を確認してください。
四、試験時間中は、受験票を机上の受験番号の下に呈示しておいてください。
五、質問、その他用件があるときは、手を上げて合図してください。
六、試験時間中の退場は認めません。
七、試験時間は国語と地理歴史・公民、または国語と数学で八十分です。
八、この問題冊子は持ち帰ってください。

開始の合図があるまで開かないでください

国語

一　［本文Ⅰ］［本文Ⅱ］を読み、後の問に答えなさい。

［本文Ⅰ］

功利主義が着目するのは、お金が儲かることでもなければ褒められることでもなく、行為の結果としてみんながどのくらい幸福ないし不幸になるかという側面である。なんでそこに着目するのか説明すると長くなるが、一つの仮説として、この世の中のよさの根拠は幸福だと考えるのが功利主義の一つの特徴である。

また、ここでいう「みんな」とは原理的にはその行為で影響をうけるあらゆる人である（以下、「関係者」と呼ぶ）。その関係者の幸福を総和して、その幸福の量が少しでも多くなる選択肢を選べというのが功利主義の基本原理であり、これを命令形で一言で言えば「功利の原理」、すなわち「関係者全員の幸福を最大化するように行為せよ」となる。同じことを表現したスローガンとして「最大多数の最大幸福」という言い方もよく使われる。功利主義はこの一つの原理から他のありとあらゆる価値判断が導き出されるという点を特徴としており、これがさまざまな問題について考える上での強みともなるし、(1)そうやって出した答えが直観と食い違うことで弱点ともなる点である。

（伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』問題作成上、一部を改変した）

［本文Ⅱ］

マイナス功利主義と呼ばれる立場がある。あまり功利主義者の間でポピュラーな立場ではないが、功利主義の考え方を知る手がかりとしてはおもしろいのでちょっと紹介したい。

まずは肉食をめぐる問題から見てみよう。医薬品の研究に動物実験を使う場合、動物を犠牲にして得られるのは、人間の生命であったり、人間の苦痛の軽減であったりする。しかし、化粧品の実験や肉食の場合、動物の犠牲と引き換えに人間が得るのは、「もっと美しく装うことができる」（すでに安全性の確認された化粧品でも十分化粧はできるはずだから）とか、「おいしいものを

食べる」とかといった、比較的瑣末な利益である（もちろん菜食主義にはビタミンB12などの栄養の問題もあるが、これは気をつければ回避可能だから、その意味では「食生活に気をつけるのがめんどくさい」というもっと瑣末な利益の問題になる）。通常の功利主義はありとあらゆる快楽と苦痛を大きさだけで比較するから、「おいしいものを食べる」ことで得られる快楽も、十分な数があつまれば、原理的には子牛肉用の子ウシが木枠の中に押し込められることで経験するさまざまな苦痛と釣り合うことがありうる。

［A］、そもそもそういう贅沢と深刻な苦痛を比較の対象にすること自体まちがっているのではないだろうか？　これは肉食に限ったことではなく、実際、定番の功利主義批判は、たいてい、功利主義が［B］を増進するために［C］を許容してしまう、という点に向けられる。こういう直観をいかす形で功利主義を修正し、贅沢のために苦痛を与えるようなことが原理的に認められなくすることはできないだろうか。

こういう考え方に基づいて、功利主義の適用範囲を限定して、マイナスを最低限におさえるという立場にしましょう、という考え方が提案された。これがマイナス功利主義の立場である。よく引用されるのは、科学哲学者のカール・ポパーが『開かれた社会とその敵』という本で述べた、「最大多数の最大幸福を要求する代わりに、もっと控え目に、すべての人のために避けることのできる苦痛を最小量にすることを要求すべきである」という主張である。この文章で述べられていることを額面通りに定式化すれば、功利のマイナス原理、すなわち、「関係者全員の苦痛を最小化するように行為せよ」あるいは「最大多数の最小不幸」というものが得られるだろう。

この立場によれば、多くの人が些細な満足を得るために一人の人をいじめる、といった状況は原理的に許容されない。肉がどんなにおいしくても、それによって動物に苦痛を与えるのなら、そもそも比較対象にすらならない。ちなみにポパーがこの本を書いたのは第二次世界大戦中で、苦痛の量をできるだけ少なく、というのは抽象的な理論の話ではなく、現に進行している戦争を具体的にイメージしたものであったのはまちがいないだろう。

たしかにマイナス功利主義はわれわれの気持ちに訴えるところがある。しかし、通常の功利主義の立場から言っても、(2)一種の経験則として功利のマイナス原理に近いものを使うのは正当化できそうである。幸福を最大にするには、まず苦痛を減らすことを考

えた方が、すでにある程度幸福な人をもっと幸福にすることを考えるよりもよほど効率的であろう。しかし、前後の記述から見ると、ポパー自身の言っているのはそういう経験則のレベルの話ではなく、もっと根本的に、快楽の増進を保証する義務なんてわれわれにはないという主張をしているのである。

D、そういう基本原理としてマイナス原理を考えると、いろいろ困ったことがおきる。まず、R・N・スマートという哲学者が指摘するように、もし功利のマイナス原理が正しいなら、(3)苦痛のないやり方で全人類を抹殺できるなら抹殺した方がよいということになる。というのは、生きてゆく上で、全く何の苦痛も感じないという人はいないだろう。どんなに今の生活に満足している人でも、たとえば「眠いのにもう起きなくてはいけない」なんていうのは軽い苦痛になったりするだろう。幸福のことをまったく度外視してよいのであれば、そういう軽い苦痛まで含めてあらゆる苦痛を未然に防ぐ最善の方法は全人類（もっと正確にはすべての有感生物）を抹殺することである。

マイナス功利主義がこの問題を回避できたとしても、(4)マイナス功利主義にはもう一つ、快楽と苦痛の分かれ目、温度計で言えば0度にあたる場所をどうやって決めるのか、という問題がある。普通の功利主義の場合、人数が一定で個人間の換算方法も一定していれば、どこをゼロにしても選択肢の望ましさの順序は変わらない。しかし、マイナス功利主義の場合にはゼロの設定がそもそも配慮するかしないかの根本的な分かれ目になるので、ゼロをどこにとるかで全然違う選択肢が選ばれることになる。たとえば、とても満腹した状態と、非常にひもじい状態の間で、どのくらいの満腹感をゼロ地点にしたらよいだろう？　ちょうど中間だろうか、一番満腹した状態だろうか、腹八分目くらいの状態だろうか、空腹ともなんともつかない微妙なところだろうか。どれもある意味ではゼロ地点だと言えそうである。

（中略）

ということで、マイナス功利主義は直観には訴えるが、倫理学理論としては問題がある、というのが妥当な評価だろう。

（伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』問題作成上、一部を改変した）

問一 傍線部分(1)「そうやって出した答えが直観と食い違うこと」の意味に合致するものとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 1 。

① 功利の原理に従って判断すると、よいとは思われない行動がよいとされてしまう場合があること
② 「関係者全員の幸福を最大化するように行為せよ」という原理は直観的にまちがっていると思われること
③ 功利主義が幸福と呼ぶものが、必ずしもわれわれが幸福と感じるものではない場合があること
④ 功利主義が正しいとする価値判断が、関係者全員の幸福を最大化しないように思われる場合があること
⑤ 関係者全員の幸福の量を増やすように行動しても、個人個人は幸福と感じないかもしれないということ

問二 空欄A、Dに入る語の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 2 。

① A あるいは D しかし
② A しかも D しかし
③ A しかし D つまり
④ A しかし D たとえば
⑤ A しかし D しかし

問三 空欄B、Cに入る語句の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 3 。

① B 社会全体の幸福や繁栄　C 個々の動物や人間の苦痛
② B どうでもよい快楽や幸福　C 重大な危害
③ B 人間の楽しみや幸福　C 動物の犠牲
④ B 特定の階層の人たちの贅沢や幸福　C 社会の格差
⑤ B いますぐに手に入る快楽や贅沢　C 将来襲ってくるかもしれない不幸

問四 傍線部分(2)「一種の経験則」とはこの文脈でどういう意味か。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 4 。

① 幸福な人をより幸福にすることよりも、苦しんでいる人を救済することの方が社会的責務であるという考え
② 「最大多数の最小不幸」を求めれば「最大多数の最大幸福」が得られるはずだという見通し
③ これまでの経験からすると、マイナス功利主義を主張する人はけっきょくのところ功利主義に行き着くことになるということ
④ 社会は、苦しんでいる人たちを見捨てて、幸福な人たちがより幸福になるようにできているという事実
⑤ 社会全体が幸福になれば、苦しんでいる人の数も減少していくはずだという楽観

問五 傍線部分(3)「苦痛のないやり方で全人類を抹殺できるなら抹殺した方がよい」のように言われる理由は何か。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 5 。

① 人類は環境破壊等、害悪の元凶だから
② そうすることによって人類が経験する苦痛をゼロにできるから
③ 最大多数の最大幸福を実現するための極端な方法が人類の撲滅だから
④ 総体的に見ると生きることは楽しさよりも苦しさの方が多いから
⑤ 社会がいまよりよくなるとは思えないから

問六 傍線部分(4)「マイナス功利主義にはもう一つ、快楽と苦痛の分かれ目、温度計で言えば0度にあたる場所をどうやって決めるのか、という問題がある」で言われるマイナス功利主義の問題とは何か。最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 6 。

① どこをゼロにしても選択肢の望ましさの順序は変わらないので、基準が設定できないという問題
② そもそも何を快楽と感じ何を苦痛と感じるかは人によって異なるので一般論が言えないという問題
③ 快楽と苦痛は温度計で温度を計るようには計れないので、主観的にならざるをえないという問題
④ どこからを苦痛とするかが決められない以上、何を最小限におさえるべきかが定まらないという問題
⑤ 人は苦痛に慣れ、その状態をゼロ地点にしがちなので、マイナス功利主義の考えるようにはならないという問題

問七 功利主義を［本文Ⅰ］で規定された立場とする。この立場に従うと言えることとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 7 。

① 人間以外の動物たちの幸福よりも、人間の幸福の方が優先されるべきだ
② たとえ愛する人をかばうためであっても、嘘（うそ）をついてはならない
③ みんなが幸福になるためであれば手段は選ばなくともよい
④ 信仰の違いがあるから肉食の是非は一概に決められない
⑤ すべての動物の命は同等に尊いものである

問八 マイナス功利主義を［本文Ⅱ］で規定された立場とする。この立場に従うと言えることとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 8 。

① 社会全体がより繁栄するために少数の人に犠牲を強いるのはやむをえないことだ
② 多くの人間の苦痛を軽減するためであっても動物に苦痛を与える動物実験は許されない
③ カンニングは試験の公正性を損ねるため、やってはいけない
④ たんなる娯楽のために狩猟を行うことは許されない
⑤ 人は社会全体の幸福の量を減少させないように行動すべきである

この頁は白紙です

二　［本文Ⅰ］はナックという名前のイルカに言語を教えることを試みた動物学者の書いたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

［本文Ⅰ］

たとえば、英語というものは単語を知らなければなにもわからない。江戸時代、船が難破してロシアの地へ流れ着いた大黒屋光太夫(注1)も、まずは現地の単語を覚えることから始めたらしい。そもそも、語学はみなそうであろう。そこでイルカへ言語を教える研究も同様と考え、ナックに単語を教えること、ものへラベリングさせることから始めることとした。すなわち、ものの名前を教えるのである。これを「命名」という。さまざまなものには名前があり、それを共有できれば情報の交換が可能になる……という発想である。

どのようにして教えるかについては、ヒトの例が参考になる。

初めて英語を習ったときのことを思い出してみよう。英語の時間、先生が手に持ったペンを見ながら、われわれはそれを「ペン」と発音することを覚えた。また、その逆に「『ペン』はどれ？」と先生に尋ねられたら、即座に机の上にあるペンを取り上げることができた。このように、「AならばB」を学習したとき「BならばA」が自然と成立すること、これを対称性と呼ぶ。

また、「ペン」と発音できたとき、次に、その発音が示すスペルが〝ｐｅｎ〟であることを覚えた。すると、先生が手にペンを持ったときに、ほとんど練習もなしで、また、わざわざ発音をしなくとも、ノートに「ｐｅｎ」という文字を書けた。つまり、実物のペンと発音の「ペン」の関係、そして「ペン」という発音とｐｅｎという文字との関係の２つの関係がわかると、特別な訓練をしなくても、実物のペンを見てすぐに紙に「ｐｅｎ」と書くことができる。このとき実物と文字との間の関係、すなわち「AならばB、BならばC」を理解したとき、なんの訓練もなく「AならばC」を理解できるとき、「推移性」(1)が成立しているという。

このように、実物とその発音、それが示す文字の関係を双方向的に理解して、初めてそのものの名前を覚えたといえる。上述の「ペン」という単語も、これらの関係を理解したから、「その(2)［　　］を覚えた」といえるのである。われわれはふだんの生活で、

無意識のうちにこういう関係を理解して、実に多くのものの名前を覚えている。もちろん、それは名詞だけに限らず、動詞や形容詞やさまざまな品詞で行っている。

そこでナックにもこれらの関係を1つずつ教え込んでいこう。もしも、ものについての対称性と推移性とが自発的に成立することが可能ならば、そこで単語へのラベリングが可能ということになる。こうしてナックとの長い付き合いが始まることとなった。

なお、実験では、突然、ナックが見たこともないような突拍子もないものを使うと、それに慣らす時間が必要になる。そこで、ナックがふだんから見慣れているもの（フィン[注2]、マスク[注3]、バケツ、長靴）を使用することとした。

シロイルカは「海のカナリア」と呼ばれるように、ふだんからさまざまな鳴音を発する。実ににぎやかで、美しい〝声〟である。擬人的に考えてはいけないが、しかしその抑揚のきいた鳴音は、ときとしてわれわれになにかを語りかけているようにも聞こえる。そこで、[3]ナックに単語を教える訓練はこの鳴音を使った方法で……と決めた。この鳴音をベースとして、音による命名すなわち聴覚性刺激による命名から始めることにした。はたして、ものの名前を自分の鳴音で呼ぶことはできるようになるだろうか。かくして、「しゃべるイルカ」を目指す研究が始まった。

いうまでもなく、私たちはものには名前があることを知っている。たとえば、「カップとって」といわれればコーヒーを飲むときの容器を持っていくし、「リンゴが食べたい」といえば、赤くて丸い果物を買ってきてくれる。しかし、もの自体は見たことがあっても、そのものの名前、つまり呼び方を知らなければなにも始まらない。そこでまずはナックにものの名前の呼び方を教えることにした。上述したような、英語の時間に先生の持つペンの名前を発音して覚えたように、ナックにその訓練をした。

訓練（条件付け）では、それぞれのものに応じて異なる鳴音を発せさせた。たとえば、われわれは水泳用の足ヒレを見て「フィン」と発音するが、それをナックなりの呼び方（鳴き方）で呼ばせるのである。このとき、「回答合図」[4]の訓練もした。つまり、ものを呈示し、そのあとで「回答しなさい」（ここでは「鳴きなさい」）の意味を持つライトを点灯した。被験体は、それが点灯したら反応するように訓練されたのである。

実験は、フィンを呈示した場合は高くて短い音、マスクのときは高くて長い音、バケツを見せたら低くて短い音、そして長靴は

やや高くて短い音……といった具合に、それぞれの呈示したものごとに異なる音で鳴かせることとし、こうしてものに応じた「鳴き分け」を行わせた。訓練を始めると、はじめは混乱していたが、徐々に見せたものに応じて鳴き分けるようになっていった。そして、やがて高い正解率を出すようになった。反応もすばやいし、見るからに安定している。これでナックは、まずはこれら4つのものの呼び方を習得した。

しかし、こうしてそれぞれのものに対応した鳴音で鳴くことを学習できたとしても、この段階ではまだ音で命名したことにはならない。単に、見本に合わせて条件性弁別的に応答(注4)しただけかもしれない。コーヒーをそそぐときの容器を「カップ」と呼ぶことができても、その反対、つまり、「カップはどれ?」と聞かれて、戸棚にあるたくさんの食器の中からちゃんと選べるか……ということである。もちろん、ヒトはこんなこと、つまりものと名前の間の双方向的な関係を、至極あたりまえに理解している。対称性を無意識のうちに獲得しているからである。

(5)では、ナックではどうだろう。そこで次に今までの訓練の逆、すなわち鳴音を聞いて、それがなにを表しているかを理解できるかを検証した。

（村山司『イルカの認知科学　異種間コミュニケーションへの挑戦』問題作成上、一部を改変した）

（注1）　大黒屋光太夫　江戸後期の船頭。一七五一～一八二八

（注2）　フィン　ダイバーが潜水時につける足ヒレ

（注3）　マスク　ダイバーが潜水時に顔につける用具

（注4）　条件性弁別　条件に応じて刺激を弁別すること

問一　乗り物のバスを英語でｂｕｓと書くことを例に、傍線部分(1)「推移性」が成立していることを述べたものとして最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 9 。

① 「バス」という発音を聞いたときにｂｕｓという文字を書くことができる

② 「『バス』に乗りなさい」と英語で言われたときに他の乗り物ではなくバスに乗れる

③ 誰かがバスを指差したときにｂｕｓという文字を書くことができる

④ ｂｕｓという文字が「バス」という発音を書き表したものであると理解できる

⑤ バの子音がｂであることを理解し、自ら説明することができる

問二　空欄(2)に入る語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 10 。

① 単語

② ペン

③ 発音

④ 文字

⑤ 関係

問三 傍線部分(3)「ナックに単語を教える訓練」とあるが、その後の文章に示された訓練でナックは具体的にどのようなことができるようになったか。その説明として最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 11 。

① ふだんから見慣れているフィン、マスク、バケツ、長靴の違いを判別できるようになった
② 呈示されたものに応じてそれぞれ別の鳴音を発することができるようになった
③ 聴覚性刺激に反応して高さや長さの異なる音を鳴き分けて回答できるようになった
④ フィンやマスクなどに対して聴覚性刺激による命名を行うことができるようになった
⑤ 「カップとって」のように「回答しなさい」という複数の単語を組み合わせた指示を理解できるようになった

問四 傍線部分(4)「被験体」が指すものとして最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 12 。

① フィン
② ナック
③ ライト
④ 筆者
⑤ 鳴音

問五　傍線部分(5)「では、ナックではどうだろう」と問いかけた後、筆者はナックにある訓練を行い、その訓練でナックがものと名前の間の双方向的な関係を理解したかどうか確める検証実験を行っている。最初に行った訓練とその次に行った検証実験の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 13 。

訓練A　フィンとマスクを並べ、高くて短い鳴音を聞かせたときはフィン、高くて長い鳴音を聞かせたときはマスクを選ぶよう訓練した

訓練B　フィンと長靴を並べ、高くて短い鳴音を聞かせたときはフィン、低くて長い鳴音を聞かせたときは長靴を選ぶよう訓練した

検証実験A　フィンを含むさまざまなものを並べたうえで、高くて短い鳴音を聞かせたときにフィンを選ぶか検証した

検証実験B　長靴を含むさまざまなものを並べたうえで、低くて長い鳴音を聞かせたときに長靴を選ぶか検証した

検証実験C　長靴を含むさまざまなものを並べたうえで、やや高くて短い鳴音を聞かせたときに長靴を選ぶか検証した

① 訓練Aをしたのち検証実験Aを行った
② 訓練Aをしたのち検証実験Bを行った
③ 訓練Aをしたのち検証実験Cを行った
④ 訓練Bをしたのち検証実験Aを行った
⑤ 訓練Bをしたのち検証実験Bを行った

次に示す［本文Ⅱ］は言語学者の書いたものである。この文章を読み、後の問に答えなさい。

［本文Ⅱ］

日本語や英語などの同じ個別言語を知っている人たちのあいだで、話し手から聞き手へと事柄が伝達されて、しかも話し手が意図している事柄と聞き手がまず最初に理解する事柄が同じものだということは、疑うことのできない事実だと言えます。

同じ言語を使っている人たちが、同じ文に対して本当に同じ事柄を対応させているのかどうかというのは、もちろん完全に確かめることは難しいでしょう。しかし、たとえば私が自分の子供に「そこをどいてくれ」と言えば、ちゃんと自分がいる場所から他の場所に移動してくれます。あるいは、私が誰かに「午後から雨が降るそうですよ」と言えば、「へー、そうですか。傘をもってくればよかった」とか「今はこんなに晴れているのにねー」などという返事が返ってくるのが普通です。この場合にも、私が伝えたかった「今日の午後から雨が降ると誰かが言った」という内容の事柄が、この文を聞いた人に正しく伝わっていると考えて差し支えありません。

同じ言語を使っている人たちのあいだでは、同じ文が同じ事柄を表しているものと理解されているのだということは、このようにさまざまの事実から確かめることができます。同じ言語を使っていても、実はお互いに全然別の事柄を理解しているのだと仮定したとしても、命令や依頼をすればその内容をきちんと実行してくれたり、ある事柄が真実だと理解すれば、(6)その事柄に応じた内容の別の事柄を表す文を述べてくれるといった事実を合理的に説明することはできません。(7)［　　］、同じ言語の同じ文は、やはり(8)話し手と聞き手のあいだで同じ事柄を表しているということを、コトバの分析を始めるにあたっての前提として考えることに問題はないことになります。

そうすると、ある個別言語の文が、話し手と聞き手とのあいだで同じ事柄を表すことができるためのしくみが、その言語には備わっているのだと考えなければなりません。(9)そういうしくみが人々の頭の中に入っているからこそ、同じ言語を使ってお互いに事柄を伝達することが可能になるわけです。そして、同じ文が同じ事柄を表すのですから、そういうしくみは人々にとって共通のも

のでなければなりません。

（町田健『ソシュールのすべて　言語学でいちばん大切なこと』問題作成上、一部を改変した）

問六　［本文Ⅱ］の第二段落に示された例のうち、傍線部分(6)「その事柄に応じた内容の別の事柄を表す文」の例として適当なものを**二つ選び**、マークしなさい。解答番号は 14 （解答欄一行に二つマークすること）。

① そこをどいてくれ
② 午後から雨が降るそうですよ
③ へー、そうですか
④ 傘をもってくればよかった
⑤ 今はこんなに晴れているのにねー

問七　空欄(7)に入る語として、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 15 。

① しかも
② いわば
③ ですから
④ けれども
⑤ なぜなら

問八 傍線部分(8)「話し手と聞き手のあいだで同じ事柄を表している」とあるが、［本文Ⅰ］に示された訓練でナックが低くて短い音を発した場合の話し手、聞き手、表される内容の組み合わせとして、最も適当なものを一つ選び、マークしなさい。解答番号は 16 。

① 話し手はナック、聞き手は筆者、表される内容は「バケツ」である
② 話し手はナック、聞き手は筆者、表される内容は「ナック」である
③ 話し手はナック、聞き手は筆者、表される内容は「フィン」である
④ 話し手は筆者、聞き手はナック、表される内容は「バケツ」である
⑤ 話し手は筆者、聞き手はナック、表される内容は「ナック」である

問九 傍線部分(9)「そういうしくみ」について説明したものとして適当なものを**すべて選び**、マークしなさい。解答番号は 17 （解答欄一行にすべてマークすること）。

① ［本文Ⅰ］に書かれた訓練の結果から、ナックは、フィンなど4つの語についての「そういうしくみ」を身につけたと結論できる
② 動物でも、［本文Ⅰ］で示された聴覚性刺激による命名をすれば、「そういうしくみ」を他者と共有したことになる
③ 「そういうしくみ」をもとに互いに事柄を伝達するには［本文Ⅰ］のいう対称性を身につけていなければならない
④ ［本文Ⅰ］で定義された推移性を身につければ、「そういうしくみ」を習得できるようになる
⑤ ［本文Ⅰ］の内容を理解した人間は、［本文Ⅰ］の筆者と「そういうしくみ」を共有していることになる

この頁は白紙です

この頁は白紙です

この頁は白紙です

この頁は白紙です

この頁は白紙です